



2024年12月24日

各 位

会 社 名 トーヨーカネツ株式会社
代表者名 代表取締役社長 大和田 能史
(コード番号 6369、東証プライム)
問合せ先 専務執行役員 米原 岳史
コーポレート本部長
(TEL. 03-5857-3333)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について(アップデート)

当社は、2024年12月24日の取締役会において、持続的成長と中長期的な企業価値向上を図るため、資本コストや株価を意識した経営の実現への対応について、現状を評価し、改善に向けた取組状況をアップデートいたしましたので、お知らせいたします。

なお、詳細につきましては、添付資料「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」をご覧ください。

以 上

資本コストや株価を意識した経営の実現 に向けた対応について

2024年12月24日



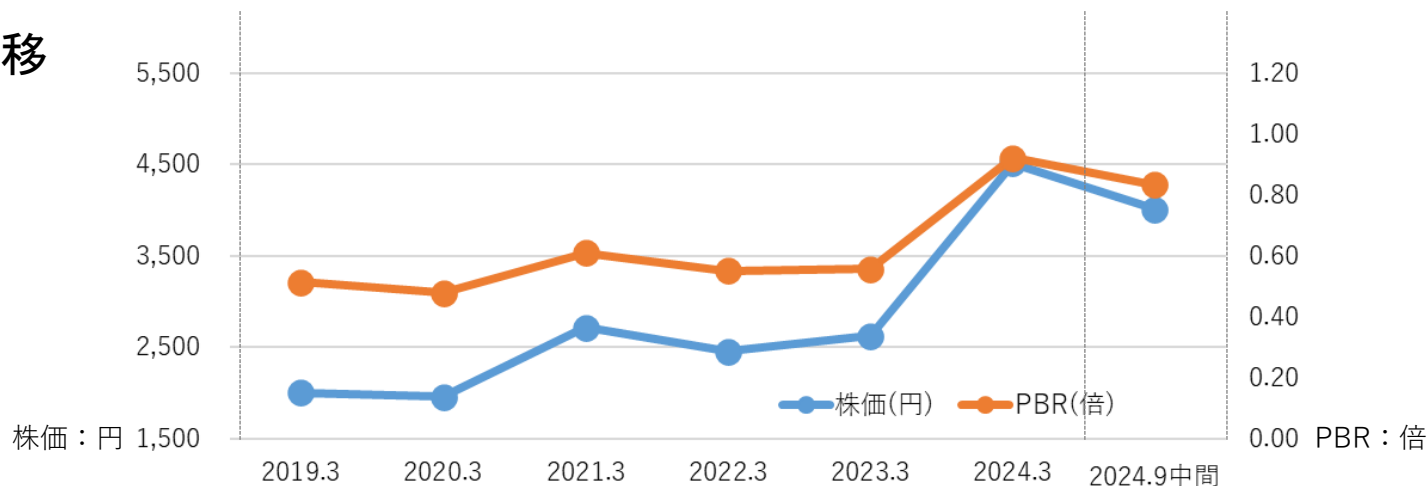
業績の伸長とともに株価は上昇しているが、PBRは1倍未満の状況

◆ 決算実績

	2019.3	2020.3	2021.3	2022.3	2023.3	2024.3	2024.9中間
1株当たり当期純利益(円)	112.80	195.87	212.41	285.43	293.63	456.13	209.60
1株当たり純資産(円)	3,897.68	4,095.51	4,461.06	4,460.55	4,708.95	4,894.51	4,811.97
自己資本比率(%)	54.4	56.7	62.1	56.7	59.5	55.6	61.0
ROE(%)	2.9	4.9	5.0	6.4	6.4	9.4	※1
株価(円)	2,004	1,955	2,715	2,452	2,622	4,510	4,005
PER(倍)	17.77	9.98	12.78	8.59	8.93	9.89	11.03
PBR(倍)	0.51	0.48	0.61	0.55	0.56	0.92	0.83
1株あたり配当金(円)	100.00	100.00	115.00	145.00	147.00	229.00	50.00
連結配当性向(%)	88.7	51.1	54.1	50.8	50.1	50.2	※2

2025年3月期の予想 ※1) ROE7% ※2) 1株当たり配当金(年間)182円・連結配当性向50.1%

◆ 株価とPBRの推移



2. PBR改善に向けた基本的な考え方

ROEとPERの関連要素に着目し、PBR改善に向けた3つの取組みを推進

- ①事業成長と収益性の向上 ②資本・財務戦略の強化 ③積極的なIR活動の実践

◆ PBRの構成要素

$$\text{PBR} = \text{ROE} \times \text{PER} = \underbrace{\text{売上高利益率}}_{\text{(当期純利益/売上高)}} \times \underbrace{\text{総資産回転率}}_{\text{(売上高/総資産)}} \times \underbrace{\text{財務レバレッジ}}_{\text{(総資産/純資産)}} \times \text{PER}$$

◆ 構成要素の意味と施策の方向性

	【売上高利益率】	【総資産回転率】	【財務レバレッジ】	【株価収益率】
指標	収益性	資産効率性	負債活用性	将来性、成長性、 業界特性ほか
改善要素	利益率向上	資産圧縮	負債増加・純資産減少	認知度向上 成長性への理解
施策の方向性	中計重点施策の推進	政策保有株式の売却	借入の有効活用	IR活動の充実
	中計目標(ROE8%)	株主還元(自己株・配当)	株主還元(自己株・配当)	自己株取得

① 事業成長と
収益性の向上

② 資本・財務戦略
の強化

③ 積極的な
IR活動の実践

3. 進捗状況

**2024年3月期は増収増益(前年比)を達成、ROEは目標の8.0%を超え9.4%に
2025年3月期も引き続き、営業利益は増収増益(前年比)の予想**

① 事業成長と収益性の向上（重点施策の推進で現中計期間でROE8%を達成）

(1) 物流ソリューション事業の事業領域・業務領域の拡大

- 製造業など新たな事業領域での顧客獲得
- M&Aを実施し、WMS※を核として業務領域を拡大中

※WMS (Warehouse Management System) 倉庫管理システム
倉庫への貨物、資材、商品の入出庫管理や在庫管理などの機能を搭載したシステム

(2) プラント事業の安定的な収益確保

- 現場の人材不足を補う体制強化で将来にわたる安定収益化に目途

(3) 次世代エネルギー開発事業GX推進室の各種貯蔵タンク受注

- 新設受注活動中。大型液化水素タンク製造技術獲得に向けた先行投資の状況が継続

(4) みらい創生事業でのM&A推進

- 環境・防災領域のM&A1社を含む、計2社が現中計期間内にグループイン



3.進捗状況について、最新の詳細情報は「2025年3月期中間決算発表会資料」をご覧ください

<https://www.toyokanetsu.co.jp/pdf/TKK20241128-1.pdf>

3. 進捗状況

② 資本・財務戦略の強化（適切な純資産維持・資本収益性と資本コストのバランス）

(1) 株主還元方針の堅持

- 方針を堅持しながら、2025年3月期において中間配当を復活

(2) 政策保有株式等の整理

- 現中計期間を通して純資産比率9.0%に(2024年9月末時点)

(3) 有利子負債の積極的活用

- 企業成長に伴う運転資金のほか、成長投資へ他人資本を投下

③ 積極的なIR活動の実践（情報開示と対話によるブランド力の向上）

(1) 投資家向け説明機会の増加

- 1on1を含め機関投資家との面談回数が50回以上(前年比1.7倍)に増加
- 個人投資家向けセミナー、株主向け和歌山工場見学会、各種メディアでの露出等を実施

(2) 分析レポートによる情報提供

- 国内・海外の投資家へ理解促進を図るため、スポンサードリサーチレポートを発行

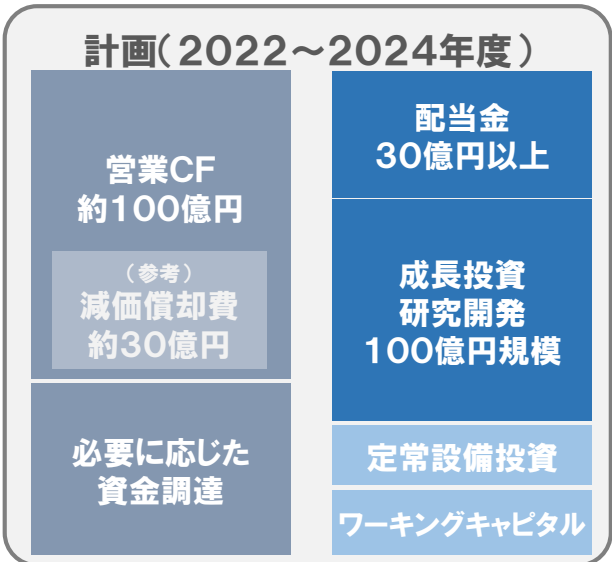
(3) 株主アンケートの実施

- 1,000名以上に対する潜在株主アンケートを実施し、状況認識を深耕

4. キャッシュアロケーション

現中計の財務戦略に基づいた、株主還元および成長投資の状況は以下の通り

実績(2022年4月～2024年9月末)



株主還元	実績累計額	(進捗率)
● 配当金	33.6億円 ※3	(112.0%)
● 自己株取得	15.1億円	(—)
合計	48.7億円	(—)

成長投資	実績累計額	(進捗率)
● M & A	27.2億円 ※4	
● 研究開発	12.6億円	
● 人材投資	8.8億円	
● 設備投資	22.0億円 ※5	
合計	70.6億円	(70.6%)

2022.4～2024.9までの財務3表を使用

- ※1) 政策保有株式及び固定資産売却収入除く営業CFの合計額
- ※2) 政策保有株式・固定資産売却収入及び現預金減少額と長短借入返済の純額
- ※3) 2024年度中間配当を含む額
- ※4) 既報のM&A2社を含む額
- ※5) 定常設備投資を除く、工場の増強等成長に資する設備投資額

当資料に関するお問い合わせ先

トーヨーカネツ株式会社

コーポレート本部 経営企画部

TEL:03-5857-3333 FAX:03-5857-3170

<https://www.toyokanetsu.co.jp/>

コード番号:6369 東証プライム



注意事項

本資料に記載されている計画、予測または見通しなど将来に関する事項は、種々の前提に基づき策定したものであり、将来の業績等を保証するものではなく、今後様々な要因により変動する可能性があります。